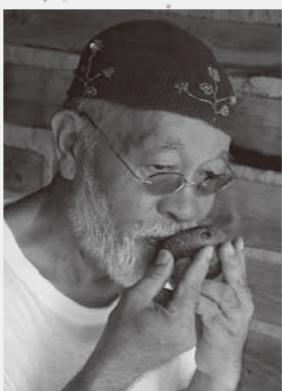


# 「ひろがるアート」展 ミュージアム・コンサート

いきるは息る、  
呼吸することが生きること、  
呼吸がもたらす生きるエネルギーを、  
音から体感する為のコンサート

2010年10月30日（土曜日）午後3時開演（午後2時30分開場）  
三重県立美術館講堂



鈴木 昭男(すずき あきお)  
1941年平塚に生まれる。  
60年代より、音の自修イヴェントを始める。  
70年代には一連の創作楽器を作製。  
なかでも、創作楽器「アラナスボ」は彼の  
音具の代表作となった。1976年に「音の  
オブジェ展」(南画廊、1976)を開催。  
1978年のフェスティヴァル・ド・トーンス  
(パリ、1978)以後、世界各地のフェスティ  
ヴァルに招待される。1988年に京都・  
網野で行われた子午線上に一日座り、  
その場の音を聴くプロジェクト「日向ぼ  
っここの空間」は彼のサウンド・アートの代  
表作となり。その後、音を聴くことをテ  
マにした音のインスタレーション作品  
「点音(とてん)」は、ベルリン、パリ、台  
北、和歌山など国内外の各地で行われ  
ている。近年は、弥生遺跡より出土した  
古代笛から構想をえた自作の土笛によ  
る演奏を行い、2009年1月には、その土  
笛のルーツを追い、京丹後市から下関  
まで1000kmの道程を各地の弥生遺跡  
を訪ね、演奏した1ヶ月に渡る自転車旅  
行「ねどり」として実行した。



山内 桂(やまうち かつら)  
1954年別府市生まれ。  
松山の大学でサックスと即興演奏を始め、作曲も行う。また、ミルフォード・グレイブス、ハン・ペニンク、デレク・ベイリー、トリスタン・ホンジンガー等の松山公演を主催。以後、23年を会社員として過ごす傍ら、地方都市で即興演奏と自己のグループで自主的な音楽活動を積み、自身の音楽を確立。  
2002年10月以降音楽活動に専念し、そのままの書きと細胞レベルのコミュニケーションによる独自のサウンド「*salt-o-sax*」によるソロを中心とした演奏活動を国内外で行う。2008年後、あらたに「*salmo sax ensemble*」の活動も開始。そのワークショップも開催。2010年6月にはヨーロッパの様々な音楽シーンに招かれ、この7月に帰国した。

藤島 寛(ふじしま ゆたか)  
1949年京都市生まれ。  
専門は性格心理学、なかでもパーソナリティ特性の遊戲性、宗教性、空想性に心を持つている。主要な著書、論文には、「5因子性格検査の理論と実践」(著、1998、北大路書房)、「遊び心の探究」(1997、京都市立芸術大学音楽学部研究紀要)などがある。  
80年代より、ジョン・ケージ(米)、ヨーリアス・カーデューネ(英)、マウリツィオ・カガーレ(独)、ホセ・マセダ(フィリピン)など、現代音楽における実験的音楽を取り上げたコンサートを企画。野外や美術館展示会場など、通常の音楽ホールではないところでのプロジェクトを多く行う。重要な企画/制作には、戸水アート館での、ボルタンスキー展、ダニエル・ビュラン展、ジョン・ケージ展に呼応した展覧会場での様々なイニシアチブ、鈴木昭男の「点音Ⅱ」(1998、ストラスホール)、世田谷美術館ロビーでの「身動きの音楽」(1998)、京都国立近代美術館での「ノイズレス」展(2007)などがある。音楽や美術に関する論考には、「可視化する音楽」「視る」(395号、2001)、「AR RULES」(「視る」436号、2008)、「鈴木昭男、点気 kI-date? カタログ・テキスト」(三岸節子記念美術館、2008)などがある。

タイトル コンサート「いきいきいき!／breathing」  
日 時 2010年10月30日(土曜日)午後2時30分開場、午後3時開演  
会 場 三重県立美術館講堂(座席数150)  
主 催 三重県立美術館 (財)三重県立美術館協力会  
協 力 三重県立美術館友の会  
企 画 藤島寛  
入 場 料 無料(事前申し込み不要)  
出 演 者 鈴木昭男(サウンド・アーティスト)、山内桂(サックス)  
プロ ラ グ ム 鈴木昭男「古代笛」、山内桂「即興演奏」、デュオ「いきあう」(鈴木昭男+山内桂)  
鼎談「津から生まれたプロジェクト——文化を支えているもの」  
(藤島寛(心理学)十山内桂十鈴木昭男)